



(新装版)

『夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録』
V.E.フランクル[著]；霜山 徳爾訳 みすず書房
(フランクル著作集 1)

本館	請求記号：/140/F44	資料ID：100843911
----	---------------	----------------

(新装版)

神田分館	請求記号：/946/F44 [Knowledge Base展示中]	資料ID：105940100
------	--------------------------------------	----------------

人間科学部教授 高田 夏子

著者のヴィクトール・フランクルは、ウィーン生まれの精神分析学者で、ユダヤ人であったためにナチスによって強制収容所に送られました。本書はそのアウシュヴィッツの体験を綴ったものです。過酷な状況で人を生かしているのは、身体的な強さではなく、精神的なもので、自然を美しいと感じることやユーモアという内面的な豊かさであり、そして過酷な状況の中にも意味や希望を持てるということのようです。「精神の自由」とは、「生きる意味とは」を考えさせてくれる本です。戦争という状況は、人間の残酷さをあらわにするものである一方でその中から優れた思想が生まれてもきます。フランクルの思想も、のちの世の中を生きる人に衝撃と希望を与える宝物と言えるのではないのでしょうか。大学生のうちには衝撃の方を受けるかもしれませんが、さまざまな人生の局面でふと思い出し、勇気や希望を与えてくれる本になる可能性があります。全部読まなくても、手にとってパラパラでも読んでみるでもいいのかもしれませんが。次に手に取るときにはどこかの1章を座り込んでじっくり読むことになるかもしれませんが、そんなふうに長く付き合える本の一つです。